

<図・写真>



<材料・製作方法等>

- ①右手で丸板を押下した際、なるべく丸板から右手が滑り落ちにくくなるよう、角度を考慮して角材でクレーンアームを作る。
- ②右手で丸板を押下していれば左手が届く位置にボールが垂れ下がるよう、クレーンアームの適切な位置にドリルで穴をあける。
- ③板でクレーンの土台を作り、プットインボックスに取り付ける。

<ねらい>

両手の、それぞれ別の動作を協調して行えるようにする（右手：クレーン板を押下し続ける／左手：前方のボールをつかみ取り、ボックスへ入れる）。

<指導方法・留意点等>

プットインの学習の発展であるため、変化をクレーンの設置だけにとどめるべく、引き続き電動スクーターボードを使用する。

<指導経過・成果・課題・展望等>

当初はなかなか右手を出せず、教師による右手の誘導を要したが、次第に右手へのタッチ、さらには言葉掛けのみで右手を動かし始め、自ら丸板を押下し始めるようになった。この動き自体は、1学年終了前から学習をしていた、両手で二つのスイッチを押下して電動カーを走行させる学習で引き出せるようになっていたため、それを生かすものである。

学習開始から約半月経つ頃には一切の支援を必要としなくなった。右手で押下、左手で取る、プットインするという、流れのある活動が楽しくなり、走行してしばらくすると、教師にリセットを求め、教師がボールをクレーンに戻すと即座に操作するようになった。

今後は、例えば紙をちぎる活動などにおいて、右手で紙を押さえながら左手でちぎるなど、獲得した動作を生かす場面を自立活動以外の時間に取り入れていくことが肝要である。また、左手だけでは困難な活動で、右手を補助的に使えるようにするために、動作パターンを次の段階に進めていく工夫が必要と考える。

